

## 景観評価における市民の誇りの形成要因

—大分市を対象として—

正会員○古海 裕実子\*<sup>1</sup> 同 姫野 由香\*<sup>2</sup> 同 グエン ティ フーン ジャン\*<sup>1</sup>  
準会員 高見 菜月\*<sup>3</sup> 同 松倉 光希\*<sup>3</sup>

7.都市計画—3.景観と都市デザイン

景観計画 KJ法 カイ2乗検定 クロス集計

### 1 研究の背景と目的

近年、少子高齢化やライフスタイルの変化などの社会の変化により、地域の課題は多様になっている。このような地域の課題を解決するためには、市民が協働して、まちづくりに取り組む必要がある。一方で地域への愛着の希薄化により、まちづくりの参加意欲が得られないという課題もあり、計画段階から市民の参画を実現する事例も増えてきた。このような、市民のまちづくりへの参画の方法は、まちづくり協議会の設立やワークショップ等、多岐にわたる。しかし、いずれの場合も参加する市民は限定的であり、すべての市民がまちづくりに参加することは難しい実態もある。

こうした課題に対し、シビックプライド(都市に対する市民の誇り)の醸成は、まちづくり活動への、参加意欲や、活動の継続性を持つための対策の一つであり、近年、注目を集めている。また、参考文献<sup>2)</sup>では、シビックプライドを醸成する「市民とまちの接点」として、都市の公共空間や都市景観、建築などの9つが挙げられている。

引地ら<sup>3)</sup>の研究でも、地域に対する愛着の形成過程を物理的環境と社会的環境から検討し、物理的環境としての地域の景観が、最も愛着と密接に関わることがわかっている。一方で、景観に関する、市民の誇りの形成要因を明らかにした研究は確認できない。

そこで本研究では、まず、大分市における景観の類型化を行い、大分市民が誇りに思う景観と居住地域などの回答者属性の関連性を分析する。その結果、景観における市民の誇りの形成要因を明らかにすることを目的とする。

### 2 研究の方法

大分市における景観の特徴を整理するため、景観形成を目的とし、同市の景観を網羅的に分析していると考えられる大分市景観計画から景観画像を抽出し、KJ

法を用いて分類する(3章)。次に、大分市民へのアンケート調査結果を用いて、「誇りに思う景観」と「回答者属性」の関係をカイ2乗検定により分析する。属性のうち、関係がみられた項目について、誇りに思う景観とのクロス集計を行う。さらに、景観の分布と照合することで、誇りに思う景観種別と回答者の居住地域の関係を明らかにする(4章)。

### 3 大分市における景観の分類と景観の立地傾向

#### 3-1 KJ法による大分市の景観の分類と特徴

景観計画を策定するうえで、その土地の景観特徴を分析することは重要である。2020年に策定された大分市景観計画では、「自然景観」「歴史・文化」「産業・土地利用」のレイヤーが重なることで、大分市の基本的な景観特性が形成されたことが説明されているが、景観間の相互関係などは示されていない。そこで、大分市の景観のまとまりや、その景観のまとまりを構成する景観の相互関係を明らかにするため、大分市景観計画に掲載されている大分市の景観画像(99枚)を、KJ法により分類した。図1にその結果を示す。

大分市の景観は「歴史的建造物・建築物」「景観の背景となる山」「河川・治水」「河川沿いの田園地帯」「大分港付近の工場」「歴史的まち並み(城下町)」「歴史的まち並み(街道筋)」「歴史的まち並み(輪中)」「佐賀関の漁村集落」「郊外の住宅団地」「沿道景観(産業道路や国道等)」「中心市街地」「海辺」「臨海工業地帯」「臨海部の公園・広場」「市街地の公園・広場」の16の小グループにわけられた。件数は、歴史的まち並み(輪中)[10件]が最も多く、次に歴史的まち並み(輪中)[9件]、中心市街地[9件]の順になっている。このことから、歴史的要素や自然的要素に加え、「臨海工業地帯」「沿道景観(産業道路や国道等)」等、1964年の新産業都市の指定以降に形成された、産業の発展による景観があることがわかった。さらに佐賀関の漁

村集落や、河川沿いの田園地帯など、生業を象徴する景観もあることが確認できた。

これら16の小グループは、土地利用や産業、要素等の関係性の近さから、7つのカテゴリーにわけることができた。【河川沿いの発展(土地利用)】には、野津原などの「河川沿いの田園地帯」や、輪中地域である「歴史的まち並み(輪中)」、ななせダムなどの「河川・治水」などが含まれる。【歴史(要素)】には、大分市中心市街地の「城下町のまち並み」や、戸次本町などの「街道筋のまち並み」などがある。【臨海(土地利用・産業)】では、「佐賀関の漁村集落」や「海辺」などがある。【新産業都市(産業)】では、1964年に大分市の新産業都市に指定されたことにより生じた「臨海工業地帯」や「郊外の住宅団地」が含まれる。【公園・広場(要素)】には、「臨海部の公園・広場」などが、【市

街地形成(土地利用)】には、「中心市街地」や「市街地の公園・広場」が含まれている。件数は【歴史】の37件が最も多く、次に【臨海】の24件、【河川沿いの発展】の22件となっている。

また、各カテゴリーを構成する景観間の相互関係に着目すると、【海辺】や【河川・治水】などの自然要素を基壇とし、そこで営まれる漁村集落や、田園地帯、臨海工業地帯、輪中の歴史的まち並みといった、「生業」や「歴史」に関する景観があることがわかった。

以上のことから、大分市の景観の特徴を維持するためには、自然要素だけではなく、景観間の相互関係を生じさせている「生業」や「歴史」も含め、総合的に維持していくことが重要であることがわかった。

### 3-2 景観要素の立地傾向の把握

図1で分類した16つの小グループ(24件)の景観



図1. KJ法により分類した大分の景観とその代表例



表3. 居住地域別にみる大分市民が誇りに思う景観 (N=2232)

	大分中央	大分西部	大分南部	大分東部	南大分	鶴崎	大南	植田	大在	坂ノ市	佐賀関	野津原	明野	基準値
1 府内5番街、赤レンガ館の街並み ①④⑦	3.5%	2.7%	5.4%	1.3%	0.6%	1.8%	0.0%	2.6%	0.9%	1.2%	8.3%	5.0%	1.3%	-0.33
2 OPAM(大分県立美術館)などの芸術文化ゾーンの街並み	4.4%	3.6%	0.9%	3.9%	1.8%	3.7%	1.9%	3.3%	0.9%	2.3%	0.0%	0.0%	3.4%	-0.06
3 商業ビルやマンションの建ち並んだ街並み ④⑥	0.8%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	-1.04
4 セントポルタ中央通りやガレリア竹町などの商店街の街並み ④⑧	1.3%	0.4%	5.4%	0.9%	0.0%	1.8%	0.6%	0.0%	0.0%	1.2%	2.8%	0.0%	0.4%	-0.83
5 雲山・九六位山などの高台から望む市街地の眺望	3.1%	2.7%	2.7%	6.5%	3.6%	2.8%	2.6%	5.5%	0.9%	3.5%	5.6%	5.0%	3.8%	0.17
6 大分駅北側の府内中央広場と駅ビルなどの街並み ⑤⑥⑨	3.3%	1.8%	0.9%	3.0%	3.6%	2.8%	3.9%	1.1%	0.9%	1.2%	2.8%	0.0%	2.6%	-0.28
7 大分駅南側の大分いこいの道とその周辺の新しい街並み ④⑨⑥①	8.1%	12.1%	7.2%	6.5%	6.5%	2.8%	5.2%	6.6%	7.4%	4.7%	2.8%	5.0%	5.1%	1.36
8 大分スポーツ公園などの都市公園の風景	3.3%	2.2%	1.8%	4.8%	0.6%	5.5%	4.5%	1.5%	2.8%	1.2%	5.6%	0.0%	6.8%	0.04
9 府内城や遊歩公園周辺の緑や街並み ⑤⑨	4.0%	3.1%	3.6%	1.3%	1.2%	2.8%	1.3%	3.0%	4.6%	4.7%	2.8%	5.0%	2.1%	-0.14
10 西大分港周辺(港、かんたん港園、店舗)の景観 ⑩⑥	6.1%	6.3%	3.6%	3.9%	7.1%	4.6%	1.3%	4.1%	5.6%	2.3%	0.0%	5.0%	2.6%	0.48
11 佐賀関地域などの自然の海と山とが近接した景色 ⑥⑦⑩⑩	10.6%	9.4%	9.9%	10.8%	10.7%	9.2%	11.0%	12.2%	14.8%	12.8%	16.7%	5.0%	10.3%	2.80
12 別府湾などの海を含む景観 ⑨	10.9%	14.7%	10.8%	13.4%	13.1%	12.8%	9.0%	12.2%	12.0%	12.8%	8.3%	15.0%	14.1%	3.30
13 港や工場のある臨海部の風景 ⑧⑩⑪⑫⑬	2.9%	3.1%	1.8%	6.1%	3.0%	3.7%	0.6%	1.5%	3.7%	7.0%	2.8%	5.0%	3.4%	-0.03
14 丘陵地のニュータウン(戸建住宅地)の街並み ⑮⑯⑰⑱⑲⑲	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	-1.10
15 40m道路などの街路樹、沿道の緑地帯	1.0%	0.4%	0.0%	2.2%	1.8%	1.8%	0.6%	0.7%	4.6%	2.3%	0.0%	0.0%	1.7%	-0.68
16 作原神社と参道周辺の風景 ②	1.3%	2.7%	3.6%	1.3%	3.0%	2.8%	0.6%	2.2%	2.8%	2.3%	0.0%	0.0%	0.9%	-0.51
17 戸次本町地区・高田嶺中地区などの歴史を感じる街並み ⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿㊀㊁㊂㊃㊄㊅㊆㊇㊈㊉㊊㊋㊌㊍㊎㊏㊐㊑㊒㊓㊔㊕㊖㊗㊘㊙㊚㊛㊜㊝㊞㊟㊠㊡㊢㊣㊤㊥㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿㊀㊁㊂㊃㊄㊅㊆㊇㊈㊉㊊㊋㊌㊍㊎㊏㊐㊑㊒㊓㊔㊕㊖㊗㊘㊙㊚㊛㊜㊝㊞㊟㊠㊡㊢㊣㊤㊥㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	1.5%	1.3%	4.5%	1.7%	3.6%	0.0%	7.1%	1.8%	2.8%	1.2%	0.0%	10.0%	4.3%	-0.25
18 豊後国周辺などの平地に広がる田園風景 ④⑩	0.6%	1.8%	3.6%	0.0%	2.4%	1.8%	1.3%	1.8%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.4%	-0.75
19 野津原の棚田などの山あいの農村の風景 ④①	2.9%	2.7%	4.5%	2.2%	2.4%	1.8%	1.9%	2.2%	1.9%	3.5%	2.8%	15.0%	0.4%	-0.28
20 大分川・大野川などの景色 ⑭⑰⑱	5.4%	6.3%	5.4%	6.1%	4.8%	6.4%	8.4%	4.1%	5.6%	9.3%	0.0%	5.0%	3.8%	0.83
21 雲山・九六位山などの山野の景色 ⑪⑫⑬	1.3%	2.2%	0.9%	0.9%	2.4%	2.8%	3.2%	4.8%	3.7%	2.3%	2.8%	0.0%	2.1%	-0.35
22 大分市立美術館の立地する上野の丘の風景	4.0%	4.5%	6.3%	3.9%	6.5%	4.6%	2.6%	2.2%	1.9%	4.7%	2.8%	0.0%	2.6%	0.20
23 明野などの、市街地の近くにある緑豊かな丘陵地	5.6%	2.7%	5.4%	4.3%	3.6%	2.8%	5.8%	4.4%	0.9%	1.2%	2.8%	0.0%	8.5%	0.49
24 夜のネオンやイルミネーションなど、にぎやかな光のある風景	1.5%	1.3%	5.4%	1.7%	1.8%	1.8%	3.9%	1.1%	1.9%	3.5%	2.8%	5.0%	2.6%	-0.41
25 郊外のパークプレイス大分などの大型店舗の建ち並んだ風景	2.3%	2.2%	3.6%	1.7%	1.2%	6.4%	6.5%	5.5%	4.6%	4.7%	2.8%	5.0%	3.0%	0.06
26 街道沿いの店舗の建ち並んだ街並み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	-1.16
27 高崎山やうみたまごなどの観光地の風景	5.4%	2.7%	0.9%	4.3%	8.3%	4.6%	7.1%	6.6%	7.4%	2.3%	8.3%	5.0%	6.8%	0.83
28 大分七夕まつりなどの、まつり・イベントの風景	2.7%	4.5%	1.8%	1.7%	4.2%	5.5%	5.8%	4.1%	4.6%	3.5%	11.1%	0.0%	3.8%	0.18
29 お住まいの近くなど日常の景観	0.8%	1.3%	0.0%	3.0%	1.2%	1.8%	1.3%	2.6%	1.9%	2.3%	2.8%	5.0%	0.4%	-0.62
30 その他( )	0.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.6%	0.9%	0.6%	1.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	-0.95
31 誇りに感じる景観はない	0.6%	0.4%	0.0%	1.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	-0.96
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-1 0 1 2

凡例

- 市街地形成(土地利用)
- 公園・広場(要素)
- 臨海(土地利用・産業)
- 新産業都市(産業)
- 歴史(要素)
- 河川沿いの発展(産業・地形要素)
- 景観の背景となる山(地形要素)

各項目ごとの順位

- : 1位
- : 2位
- : 3位

赤太字: 地区内に景観がある  
黒太字: 隣接する地区に景観がある

目)とのクロス集計表を表3に示す。

各選択肢における、単純集計の基準値との差をみると、基準値に対し最もプラスにふれているのは、選択肢12「別府湾などの海を含む景観」(+3.30)であった。次に、選択肢11「自然の海と山が近接した景色」(+2.80)、選択肢7「大分駅南の大分いこいの道とその周辺の新しい街並み」(+1.36)となっている。このことから、大分市民は主に、臨海部の景観に誇りを持っていることもわかった。次に、図2の景観の分布と表3を照合する。景観の分布が確認できる23の選択肢のうち、選択肢を構成する景観が分布する地区の住民から、多く選ばれている景観が11つあった。具体的には、選択肢11「佐賀関地域などの自然の海と山が近接」は、佐賀関地区16.67%であり、選択肢17「戸次本町地区・今市石畳地区の歴史を感じる街並み」は戸次本町がある野津原で20%、選択肢19「野津原の棚田など農村の風景」は野津原地区の15%であった。さらに、選択肢の景観が分布する地域の隣接地域に住まう住民から多く選ばれている景観も9つあった。

これらのことから、市民が誇りに思う景観は、居住

地域に影響を受けていること、選ばれる景観の多様性は、同市における景観の多様性を示しているといえる。

## 5 総括

大分市の景観は、16つの小グループに分類でき、関係性の近さから、7つのカテゴリーに分けることができた。また、各カテゴリー内の景観間の相互関係をみると、自然要素を基壇とし、そのうえで営まれる「生業」や「歴史」に関する景観があり、それらの景観間は相互に関係していることが明らかになった。

次に、アンケート調査結果から、回答者属性の中で最も誇りに思う景観と関連度が高かったのは「居住地域」であることがわかった。さらに、居住地域が近い景観、つまり身近な景観に誇りを持つ傾向があることが明らかになった。

### 【補注】

(1)最寄りの行政サービス窓口として、明野・鶴崎・植田・大南・大在・坂ノ市・佐賀関・野津原の8カ所に支所を設置している。市役所のある中心市街地も、地区の人口や特性を考慮し、「大分中央」「大分東部」「大分南部」「大分西部」「南大分」にわけることとする。

### 【参考文献】

- 1) 伊藤香織「シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素-富山市中心市街地と富山地域を事例として-」日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol.54.No.3,pp615-622,2019-10
- 2) 伊藤香織, 著. 他著: 住民がつくる「おしゃれなまち」-近郊都市におけるシビックプライドの創成-, pp89-100, 公益財団法人日本都市センター, 2019年
- 3) 引地博之・青木俊明・大淵憲一「地域に対する愛着の形成機構-物理的環境と社会的環境の影響」土木学会論文集D, Vol.65.No.2,pp101-110,2009-4

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生

\*2 大分大学理工学部創生工学科建築学コース 助教授 博士(工学)

\*3 大分大学理工学部創生工学科建築学コース 学部生

\*1 Graduate Student, Graduate School of Oita Univ.

\*2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng.

\*3 Undergraduate Student, Oita Univ.